

輸送動向について（平成26年度第1－四半期）

平成26年7月

1. 輸送概況

第1－四半期は、6月中旬に室蘭線大雨による運転規制や東海道線人身事故、江差線高速貨第7066列車脱線事故が相次いで発生し、高速貨170本、専貨1本が運休した（前年同期間は、高速貨142本、専貨2本が運休）。

荷動きについては、景気回復や円安により国内生産が堅調に推移し、一部では消費税増税前の需要急増の反動があったものの、全体では前年を上回って推移した。

コンテナ貨物は、紙・パルプ、食料工業品等が前年を上回り、自動車部品、エコ関連物資等が前年を下回ったものの、全体では前年比102.9%となった。紙・パルプは円安による国内供給の増加、食料工業品は5月の気温上昇により主に清涼飲料水が好調な発送となり、増送となった。一方、自動車部品は消費税増税による販売の減及び現地調達化の進展、エコ関連物資は災害廃棄物の輸送終了に伴いそれぞれ減送となった。

車扱貨物は、石油が消費税増税前の前倒し出荷が旺盛となった反動や増税後の需要低迷、北海道での石油輸送終了により減送となり、全体では前年比92.1%となった。

2. 輸送実績

（単位：千トン、％）

種別	1－四半期計		
	本年実績	前年実績	前年比
コンテナ	5,189	5,045	102.9%
車扱	1,794	1,947	92.1%

3. 品目別輸送実績表

（単位：千トン、％）

種別	品目	本年実績	前年実績	増減	前年比
コンテナ	農産品・青果物	368	355	13	103.5%
	化学工業品	493	490	4	100.8%
	化学薬品	359	340	19	105.5%
	食料工業品	845	800	45	105.6%
	紙・パルプ	817	756	61	108.1%
	他工業品	379	392	-12	96.7%
	積合せ貨物	578	569	10	101.7%
	自動車部品	186	217	-32	85.6%
	家電・情報機器	120	108	12	111.2%
	エコ関連物資	95	114	-19	83.3%
	その他の	949	905	44	104.9%
コンテナ計	5,189	5,045	144	102.9%	
車扱	石油	1,167	1,269	-103	91.9%
	セメント・石灰石	281	280	1	100.3%
	車両	182	188	-6	97.0%
	その他の	164	210	-46	78.2%
	車扱計	1,794	1,947	-154	92.1%

（車扱の品目別輸送量は社線発送トン数も含む数値、本年は速報値、前年は確報値）